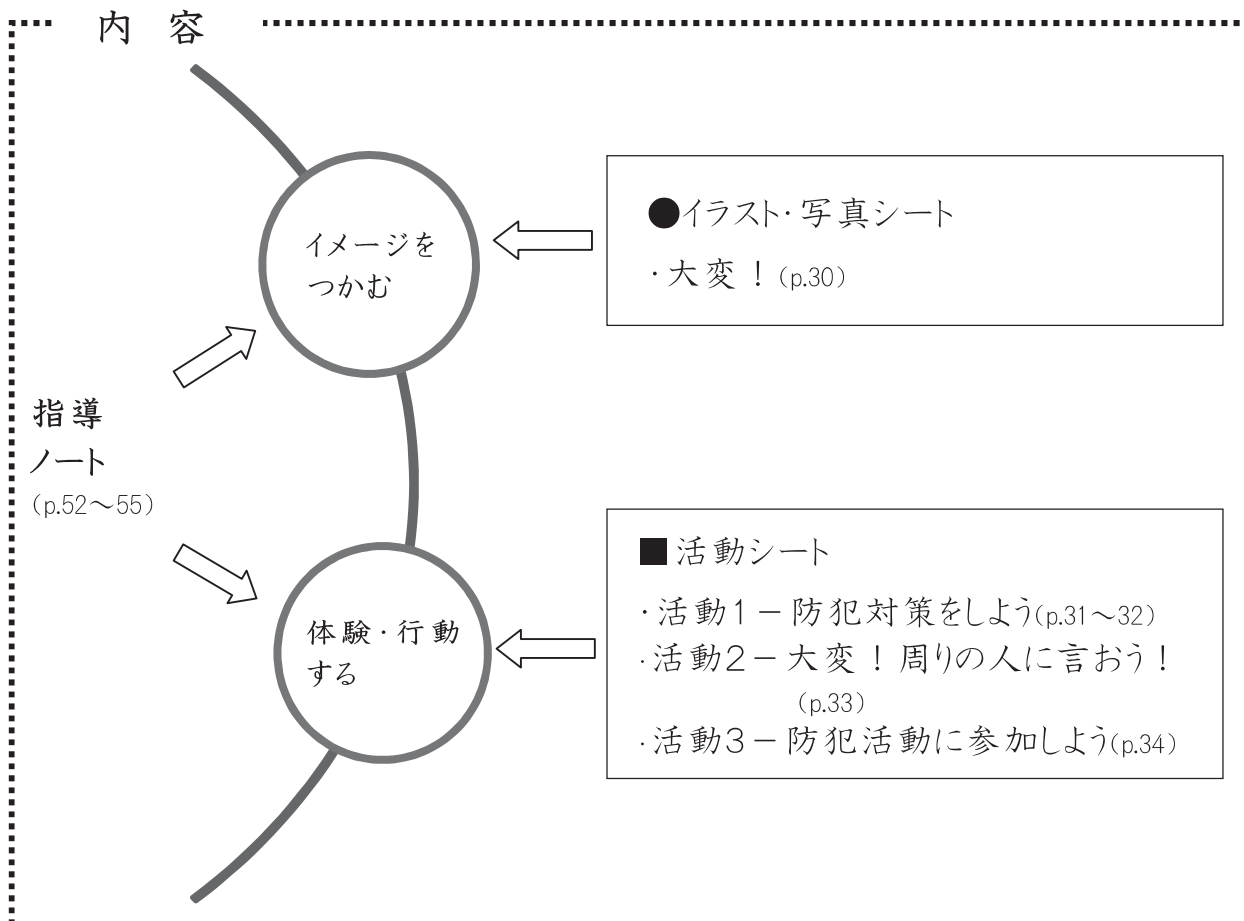


じこ そな たいおう (04) 事故に 備え, 対応する



取り上げる生活上の行為の事例

- (0402) 「防犯対策を行う」
- (0403) 「防犯に対処する」
- (0403040) 「近くの人に知らせる(事件等)」

教室活動の目標

- ・事件に遭遇したとき, 近くの人に知らせることができる
- ・防犯対策について理解し, 実践する

教室活動のねらい

- ・隣人や近くの人に, 事件について状況説明ができる
- ・防犯対策をすることができる
- ・地域の防犯活動に参加する

指導ノート

取り上げる生活上の行為の事例

- (0402)防犯対策を行う
- (0403)防犯に対処する
- (0403040)近くの人に知らせる(事件等)

教室活動の目標

- － 事件に遭遇したとき、近くの人に知らせることができる。
- － 防犯対策について理解し、実践する。

教室活動のねらい

- － 隣人や近くの人に、事件について状況説明ができる。(活動1)
 - － 防犯対策をすることができる。(活動2)
 - － 地域の防犯活動に参加することができる。(活動3)
- ・ あなたは、慣れない土地で犯罪にあったことがありますか。学習者が慣れない土地で犯罪にあったときのことを想像してみてください。犯罪にあったときは、とっさの的確な判断と対応が重要です。学習者が、犯罪にあっても対応ができる、大丈夫だと感じられるようになる活動をしてみましょう。また、犯罪の発生と地域の防犯は密接な関係があります。地域の警察と協力をして外国人向けの防犯教室を開いたり、地域に暮らす一員として地域の防犯ボランティアにいっしょに参加したりするなど、教室だけに留まらない活動もしてみましょう。その活動は、学習者が地域で安心して暮らせる場作りのきっかけとなることでしょう。

活動前に確認しておくこと

- － 学習者が居住する地域で最近発生している犯罪に関する情報

準備する素材

- － 防犯対策・対応に関する多言語情報
- － 防犯対策グッズ(防犯ブザーなど)

教室活動の展開の説明

イメージをつかむ

●イラスト・写真シート

・大変！(p.30)

- ・「イラスト・写真シート」を使って、これまで犯罪にあった経験を共有しましょう。また、日本では犯罪にあった時にどうしたらいいのか、学習者が知っていることを引き出していきましょう。出てきたことばや表現(母語、日本語ともに)はメモをしておきましょう。日本語で知っておくといいいものは、日本語で何と言うか知る活動につなげていきましょう。
- ・学習者それぞれの経験や知っていることを共有していくことは、指導者や協力者を含めた教室の仲間作りにもつながります。教室の仲間が、緊急事態にあった時に助け合える仲間になる可能性があるのです。

< 問いかかけ例 >

「これはどんな場面でしょうか。」

「あなたは、今までこのような場面にあったことがありますか。」

「そのとき、どうしましたか。どんな気持ちでしたか。」

「日本でこのような場面にあったとき、どうしたらいいでしょうか。知っていることを話しましょう。」

- ・ただし、過去の辛い経験を思い出し、話すことが学習者の負担となることもありますので、必要以上に深く、繰り返して質問するようなことはせず、学習者が話せること・話したいと思うことだけ話す雰囲気を作ることが大切です。

体験・行動する

■活動シート

・活動1－防犯対策をしよう！(p.31～32)

- ・状況ごとに、防犯対策について理解する活動です。
- ・イラスト・写真シートに引き続き、イラストを見ながら、犯罪にあった経験、どう対応したか、犯罪にあわないためにどうしたらいいか自由に話してみましょう。その後、防犯に関する多言語情報を見て、どのように対策をしたらいいか確認しましょう。

そのとき、防犯対策グッズの実物も準備して、それらがどんな場面で効果があるのか、どうやって使うのか、どこで売っているのかも話してみましょう。

- ・ 防犯対策グッズを実際に店頭に行って手に取り、購入し、実際に使ってみるという活動もできます。店頭で学習者が使い方を尋ねる表現を日本語でできるようになっておくと、教室以外の場面でも、周りの人に聞くことができます。

< 会話例 >

学習者: どうやって使いますか。

指導者: ここを押すと、大きい音が出ます。

多言語情報例

例1) 滋賀県「なくそう犯罪」防犯マニュアル

- ・ 英語, 中国語, 韓国語, スペイン語, ポルトガル語)
- ・ <http://www.pref.shiga.jp/c/anzen/manual/index-1.html>
- ・ ひったくり, 空き巣, 盗難, 恐喝, 痴漢, 通り魔, ストーカーなどさまざまな犯罪への対策と対処, 連絡先について紹介されている。ホームページからダウンロードすることができる。

例2) 神奈川県防犯対策ガイド

- ・ 英語, 韓国朝鮮語, スペイン語, ポルトガル語, 中国語, 日本語
- ・ <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f707/p8085.html>
- ・ 県内各地で配布しているほか, ホームページからダウンロードすることができる。

例3) 神奈川県警察 防犯心得

- ・ 英語, 中国語, 韓国語, スペイン語, ポルトガル語)
- ・ http://www.police.pref.kanagawa.jp/eng/e_mes/engd0001.htm#leaflet
- ・ ひったくり, 空き巣, 自転車盗難への防犯対策の説明がある。ホームページからダウンロードすることができる。

例4) 広島県警察 「快適な市民生活を送るために」

- ・ 英語, 中国語, ポルトガル語
- ・ <http://www.police.pref.hiroshima.lg.jp/002/kouhou/index.html>
- ・ 犯罪にあわないための方法, 犯罪にあったときの対処方法などが紹介されている。ホームページからダウンロードすることができる。

- ・ 学習者の国では, どのような犯罪が多いのか, 犯罪に対してどのような対策を取っているかなどについて話をしてみるのもいいでしょう。

- ・教材例に掲載した防犯対策グッズ(p.32)は以下のものです。
ー防犯ブザー, 防犯ネット, 自転車の防犯登録ステッカー, サッシ, 補助錠, センサーライト
- ・入門レベルの学習者は「泥棒!」「助けて!」などのことばが最低限言えればよいなど, 学習者の日本語のレベルに合わせて, ロールプレイの難易度を変えてみましょう。また, ロールプレイの際には, 行動面で気を付けること(例えば, 道を歩く時, 道路側にかばんを掛けて歩かない等)にも注意して, やってみるといいでしょう。
- ・場面は地域の犯罪発生状況, 学習者の生活状況・日本語のレベルなどに合わせたものを提示しましょう。例えば, 自転車に乗っている人からのひったくりが頻発している地域ではその場면을扱ったり, すぐ近くの人に助けを求められないような地域では 110 番に自分で通報をする場면을扱ったりすることもできます。
- ・近くに人がいなかった時どうするか, だれに連絡をするのかなどを確認しておく, 万一のとき安心です。

体験・行動する

■活動シート

- ・活動2－大変! 周りの人に言おう! (p.33)

- ・犯罪にあった時に, 近くの人に助けを求めるロールプレイをしてみましょう。
- ・教材例に掲載されている場面以外に, 地域の犯罪発生状況に即した場面を取り入れたりするといいいでしょう。

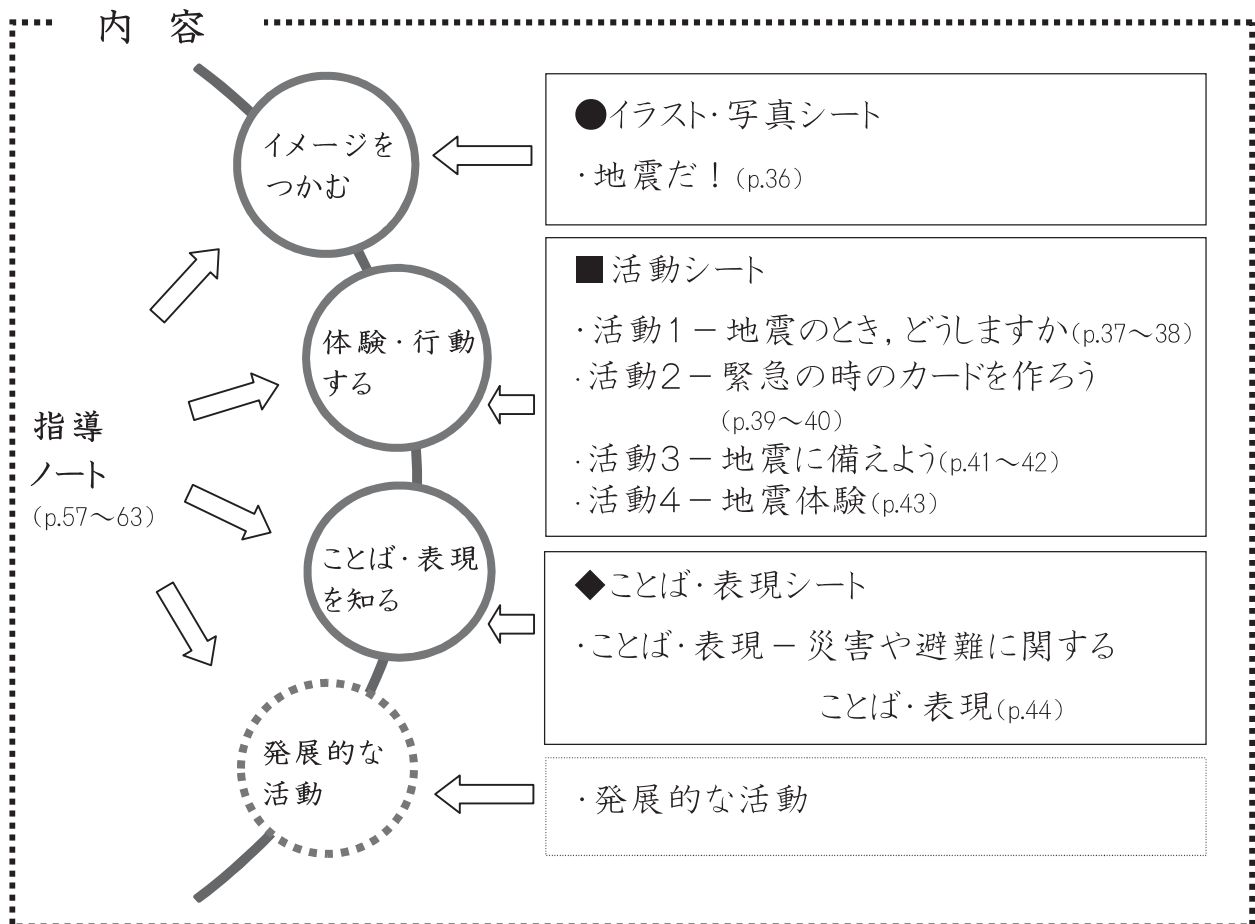
体験・行動する

■活動シート

- ・活動3－防犯活動に参加しよう(p.34)

- ・「活動3－防犯活動に参加しよう」は, 学習者の居住地に防犯活動をする団体があれば, いっしょに活動に参加をしてみる教室活動を組み込んでみましょう。地域で生活する一員として, ボランティアとして活動できるチャンスがあることを知るとともに, 活動を通して, 地域の人との交流が生まれ, 万一のときも安心です。

さいがい そな たいおう じしん
(05) 災害に 備え, 対応する(地震)



取り上げる生活上の行為の事例

- (0501030)「避難場所・方法を理解する・人に聞く」
- (0502010)「地震について理解する」
- (0502020)「身を守る(地震発生時)」

教室活動の目標

- ・地震の時に行動できるようにする

教室活動のねらい

- ・避難場所や避難方法の注意書きを読んで理解できる
- ・身の守り方について説明を読んで理解できる
- ・地震に備えることができる

指導ノート

取り上げる生活上の行為の事例

(0501030)「避難場所・方法を理解する・人に聞く」

(0502010)「地震について理解する」

(0502020)「身を守る(地震発生時)」

教室活動の目標

- －地震の時に行動できるようにする。

教室活動のねらい

- －避難場所や避難方法の注意書きを読んで理解できる。(活動1, 活動2)
 - －身の守り方について説明を読んで理解できる。(活動1)
 - －地震に備えることができる。(活動2, 活動3, 活動4)
- ・日本は地震が多い国です。地震の少ない国から来た人にとって、突然の地震はどのようなものでしょうか。災害はいつ何時やってくるか分かりません。万一のときも、自分は落ち着いて安心して対応できるんだという自信を持てるような場を作っていけるといいでしょう。学習者が地域の一員として安心して暮らしていけるよう、地域の地震の避難訓練、外国人向け防災教室などの日程と組み合わせて教室活動を展開するなどの工夫ができるとよいでしょう。

活動前に確認しておくこと

- －学習者の居住地域や職場・学校の避難場所
- －近くの防災館の開館時間, 休館日, 交通
- －地域の防災訓練の日程
(外国人向け防災訓練や防災教室がある自治体もあります)

準備する素材

- －学習者の居住地域の自治体が発行している地震時の対応に関する多言語

情報

- － 学習者の居住地の自治体が発行している避難場所に関するパンフレット
- － 非常時用携帯カード(学習者の自治体のものがあればそれを利用，なければ他自治体のものを利用してよい。または，自作する。)

教室活動の展開の説明

イメージをつかむ

- イラスト・写真シート
- ・ 地震だ！(p.36)

- ・ 「イラスト・写真シート」(p.36)を見ながら，学習者のこれまでの地震の体験について話をします。学習者がどう対応したか，どんな気持ちになったのか，話を引き出していきましょう。最近の地震の様子を報道しているテレビの映像を利用したり，学習者が居住する地域の避難場所を示す看板の写真など学習者に身近で地域に合った素材を使ったりするといいいでしょう。

< 問いかけ例 >

「あなたの国ではよく地震がありますか。」

「地震を体験したことがありますか。そのとき，どうしましたか。どんな気持ちになりましたか。」

体験・行動する

- 活動シート
- ・ 活動1－地震のとき，どうしますか(p.37～38)

- ・ 「活動1－地震のとき，どうしますか」(p.37～38)は，地震発生時の適切な行動を知る活動です。それぞれのイラストの行動が適切かどうか考えた後，多言語情報を見て確認します。学習者が一人で考えてみてもいいですし，協力者といっしょに考えてみてもいいでしょう。それぞれの行動の理由についても確認できると，よりいいでしょう。また，イラストに載っていない行動や地域特有の行動(沿岸部では高台に避難する等)について話を発展させてもいいでしょう。適切な行動を知っていれば，学習者は地震が起きたときもパニックにならず，落ち着いて対応できる可能性が高くなるはずです。

- ・地震に関する多言語情報は多くの自治体や団体で作成されています。自治体によって、情報量、提供形態などが異なります。学習者の居住地のもの以外でも学習者に合うものがあれば大いに活用しましょう。

多言語情報例

例1) 東京都生活文化局 「地震から身を守るために」

- ・日本語・韓国語朝鮮語・英語・中国語(併記)
- ・<http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/index3files/zisin.pdf>
- ・電車・バス・地下鉄に乗っているとき、地下街にいるときなど地震発生時にいる場所別に適切な対応が掲載されている。
- ・ホームページからパンフレットをダウンロードすることができる。

例2) 滋賀県 外国人向け地震対策シリーズ完成版

- ・日本語・英語・ポルトガル語・スペイン語・中国語(大陸)・中国語(台湾)・ハングル・タガログ語)
- ・<http://www.s-i-a.or.jp/gaikokuseki/jisin/index.htm>
- ・発生時の対応だけでなく防災用品や消火器の使い方など情報が豊富で多岐に渡る。

例3) 文化庁『日本語学習・生活ハンドブック』

- ・日本語，中国語，韓国・朝鮮語，英語，スペイン語，ポルトガル語
 - ・http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/handbook/index.html
- p.39 災害と緊急電話

体験・行動する

■活動シート

- ・活動2－緊急の時のカードを作ろう(p.39～40)

- ・非常時に携帯するカードを作成する活動です。カードには、学習者の個人情報や避難場所、連絡先などを記入しておきます。学習者の居住地の自治体が発行する非常用携帯カードがあれば、それを利用することができます。学習者の自治体で作成していない場合、他の自治体で作成したカードを利用することもできますし、学習者といっしょに自分たちで作ってみるのもいいでしょう。作成したら、小さく折りたたんで、普段から財布や手帳に入れておくようにしましょう。

多言語非常用カード例

例1) (財)栃木県国際交流協会「地震・災害時のための避難カード」

- ・日本語・中国語・英語・ポルトガル語・スペイン語併記
- ・<http://www.pref.tochigi.lg.jp/f04/life/kokusai/tabunka/documents/1235973842433.pdf>

例2) 東京都生活文化局「ヘルプカード」

- ・日本語・英語・中国語・韓国語朝鮮語)
- ・<http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/index3files/ALLhelpC.pdf>

- ・避難場所については、学習者が住んでいる自治体が発行している避難場所のパンフレットを見ながら確認しましょう。一次的な避難所と広域避難所の両方がある地域もあります。事前に確認しておくといいいでしょう。避難場所を学習者が知らない場合は、実際にいっしょに歩いて避難経路を確認するのも実用的な活動です。
- ・学習者の状況に応じて記入項目を変更したり増やしたりしましょう。

＜記入項目例＞

- ・家族の緊急連絡先(会社や学校など)
- ・家族との緊急集合場所
- ・近所の人の連絡先
- ・持病の名前・普段飲んでいる薬の名前
- ・かかりつけの病院名・病院の連絡先 等

体験・行動する

■活動シート

・活動3－地震に備えよう(p.41～42)

- ・ここでは、日常生活で地震にどんな備えができるのかを知ることを目的としています。

－防災用品について

- ・ここでは、防災用品について話をします。防災用品の実物を持って来て話をするといいいでしょう。学習者が見たことがあるか、使い方を知っているか、指導者や協

力者の家ではどんなものを使っているか、学習者も使ってみたいかなど話を広げてみましょう。実際に、ホームセンターなどの防災用品売り場に行って、防災用品を手にしてみるのもいいでしょう。

－防災袋について

- ・ここでは防災袋について話をします。まず、「ことば・表現」の単語「薬」～「乾パン」（防災袋に入れておくもの）に慣れておくといいでしょう。協力者に自宅に防災袋の備えの有無やその中身について、インタビューをします。教材例には掲載していませんが、インタビュー時の記録用紙を作成しておくといいでしょう。

＜表現例＞

学習者：家に防災袋がありますか。

学習者：防災袋の中に何が入れてありますか。

- ・インタビューをしたあと、自分なら防災袋にどんなものを入れておくかを考えて、記入します。その後、実際に、防災袋を準備して、物を用意するところまで行くと、より実践的です。

－消火器について

- ・ここでは消火器について話をします。地震の後、火災が発生することがありますが、ここでは消火器を使った初期消火について話をします。自分の身の回りのどこに消火器があるかを調べたり、使い方を確認したりします。街頭消火器の設置場所は、自治体のホームページなどで紹介されています。また、自治体に問い合わせ聞いておくといいいでしょう。（※街頭消火器が設置されていない自治体もあります。）

体験・行動する

■活動シート

・活動4－地震体験(p.43)

- ・「活動4－地震体験」の「(1)防災館に行って、地震を体験しましょう」(p.43)は、近くに防災館がある場合に、実際に防災館を訪問し、地震を疑似体験をする活動です。
- ・「活動4－地震体験」の「(2)地域の防災訓練に参加しましょう」(p.43)は、地域の地域防災訓練に参加する活動です。訓練にいっしょに参加することを教室活

動にぜひ組み込んでみましょう。地域で生活する一員という気持ちが生まれると、万一のときも安心です。

- ・ もし、防災訓練がなければ日本語教室として避難訓練を実施してみましょう。その際に必要になる表現を、確認しておきましょう。
- ・ 表現は「地震だ」「助けて」などの基本的な表現のほか、沿岸部か山間部か、また都会なのか農村なのか、学習者が住んでいる状況によって避難するときに必要な表現が違ふことがあります。
- ・ 例えば、沿岸部では「津波が来るよ！」「高台に逃げて！」ということばが言える、または聞き取れることが大切となります。学習者と話をしながら、地震のときにどんな表現やことばが必要になるかを話しながら、話題に出た表現を扱っていくことが大切です。

ことば・表現を知る

◆ことば・表現シート

・ことば・表現－災害や避難に関することば・表現(p.44)

- ・ 「地震」～「津波」は地震災害に関して知っている役役立つことばです。「薬」～「乾パン」は防災袋に入れる代表的なものです。防災袋に入れるものを買ったときに行ったときに困らないよう、これらのことばに慣れておくといいでしょう。「地震だ！」～「ガスを止めて！」は避難時によく使う表現です。
- ・ 「薬」～「乾パン」のことばは「活動3」の「(2)防災袋について話しましょう」(p.41)で防災袋の活動をする前に、防災袋に入れるものの単語を確認しておくといいでしょう。
- ・ ゲームを取り入れて、ことばに慣れることもできます。下の例はカルタを応用したものです。「薬」～「乾パン」の表現もカルタを応用し、聞いて分かるようにできるといいでしょう。

<「薬」～「乾パン」のことばのゲーム例>

準備：防災袋に入れるものの絵カード

- ① 学習者数人でグループを作り、机の周りに座ります。
- ② 絵カードを机の上にはばばらに置きます。
- ③ 指導者が絵カードの単語を一つ言います。学習者は該当する単語カードを取ります。一番早く取れた人がそのカードをもらいます。これを机の上のカードがなくなるまでやります。
- ④ 机の上のカードがなくなったら終わりです。一番カードをたくさん持ってい

る人が勝ちです。

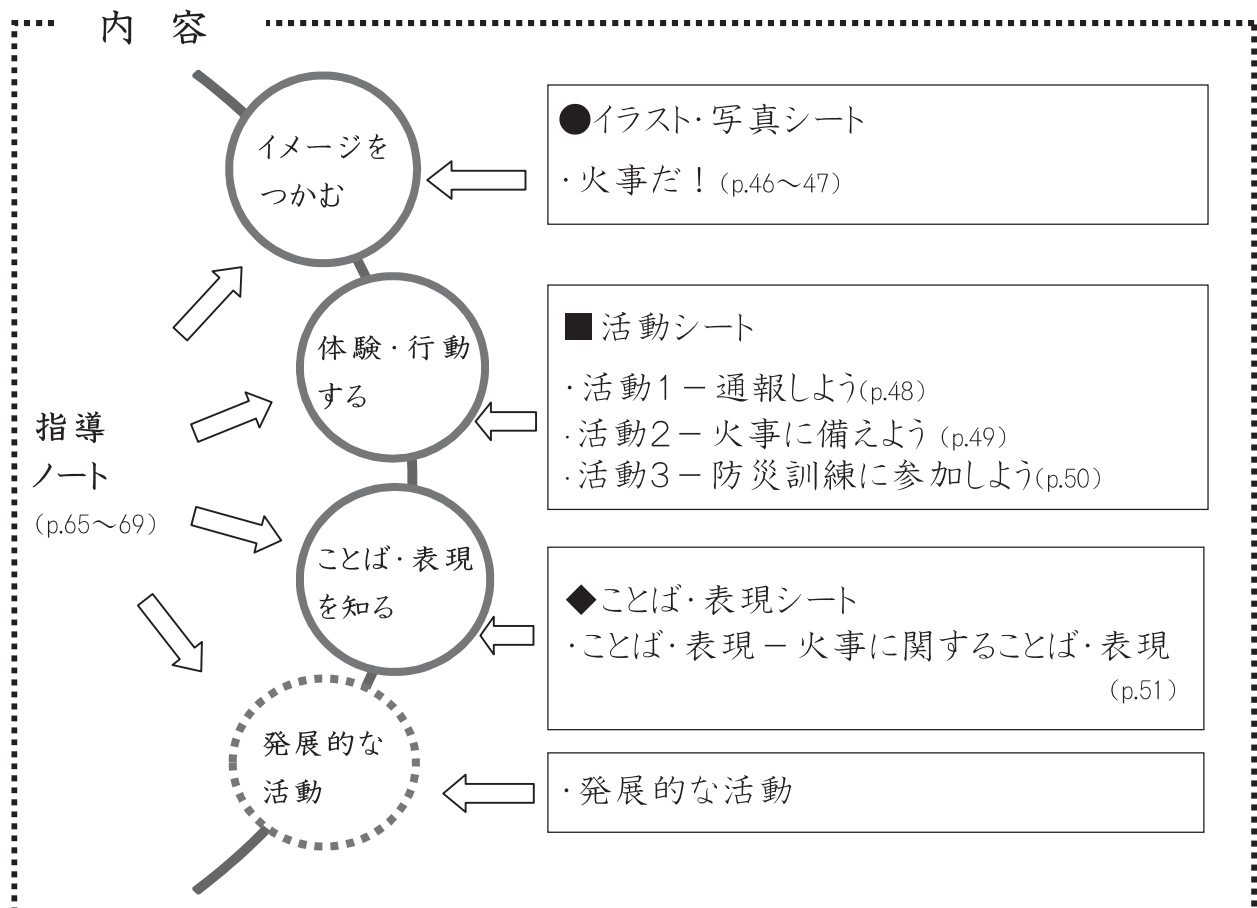
発展的な活動

- ・ 学習者の地震に関する知識やニーズによっては、より発展的な活動も考えられます。

< 例 >

- ・ 災害伝言板の使い方を知る。
- ・ テレビやラジオのニュースから震度や津波の情報を得る。
- ・ 学習者の居住自治体の防災無線を聞いて、情報(「津波」「高台に逃げてください」「地すべり」「余震」など)を聞き取る。

(05) ^{さいがい}災害に ^{そな}備え、^{たいおう}対応する(火事) ^{かじ}



取り上げる生活上の行為の事例

- (0504050)「消防・救急(119 番)や警察(110 番)に電話する(火災等)」
- (0502020)「身を守る」

教室活動の目標

- ・火災発生時に、消防・救急(119 番)に電話をする
- ・身を守る

教室活動のねらい

- ・緊急時の電話番号が分かる
- ・消防に電話をかけて、火事の発生場所と状況、自分の名前と電話番号を伝えることができる
- ・火災に備えることができる

指導ノート

取り上げる生活上の行為の事例

(0504050)「消防・救急(119 番)や警察(110 番)に電話する(火災等)」

(0502020)「身を守る」

教室活動の目標

- － 火災発生時に、消防・救急(119 番)に電話をする。
- － 身を守る。

教室活動のねらい

- － 緊急時の電話番号が分かる。
 - － 消防に電話をかけて、火事の発生場所と状況、自分の名前と電話番号を伝えることができる。(活動1)
 - － 火災に備えることができる。(活動2, 3)
- ・ さまざまな緊急事態の中でも火事を取りあげました。海外の知らない土地で火事に遭遇した場合、母国にいたとき以上に不安になったり焦ったりするものです。例えば、火事を通報しようにも、電話は相手の顔が見えず、余計に不安を感じることでしょう。でも、最低限のことが伝えられればいいのです。これが言えるから万一のときも、落ち着いて行動できるぞと安心を感じられるような教室活動を考えてみましょう。また、地域の防災訓練の時期にこのトピックを扱う工夫をすることにより、地域の一員として安心して暮らせることにつながるでしょう。

活動前に確認しておくこと

- － 街頭消火器の設置場所
- － 避難経路
- － 防災訓練の日程

準備する素材

- － 緊急時の通報先が分かる多言語情報

教室活動の展開の説明

イメージをつかむ

- イラスト・写真シート
- ・ 火事だ！(p.46～47)

- ・ 「イラスト・写真シート」(p.46～47)の火事の写真をしながら、学習者がこれまで火事に遭遇した経験や遭遇しそうになった経験について話します。それから、日本で遭遇したときにどうすればいいか、現在の学習者の知っている知識やことばを引き出していきましょう。学習者から出てきたトピックに関係することば(日本語、母語とも)はシートに書き留めながら話しましょう。

< 問いかけ例 >

「これはどんな場面でしょうか。」

「火事になったこと、火事になりそうになったこと、火事を見つけたことがありますか。」

「そのとき、どうしましたか。」

「消防署に火事を通報するとき、あなたの国では何番に通報しますか。日本では何番に通報したらいいでしょうか。」

「通報したとき、消防署員に何をどう伝えますか。」

- ・ 多言語情報を利用して、火災時の緊急電話番号、伝える内容、公衆電話での電話のかけ方を確認しましょう。このとき、同時に重篤な怪我、交通事故、救急など緊急事態の電話番号先も確認しておくといいでしょう。日本では火災と救急は同じ番号ですが、国によっては異なることもあります。
- ・ 近くに公衆電話がある場合、また携帯や固定電話から電話ができない場合に備え、公衆電話からの緊急電話番号のかけ方も確認しておくといいでしょう。そのとき、実際の公衆電話を見て確認するか、公衆電話の写真を用意するといいでしょう。

多言語情報例

例1)文化庁『日本語学習・生活ハンドブック』

p.40-41 緊急電話

例2)財団法人自治体国際化協会『多言語生活情報』

緊急・災害時

<http://www.clair.or.jp/tagengorev/ja/p/index.html>

体験・行動する

■活動シート

・活動1－通報しよう(p.48)

- ・「活動1－通報しよう」(p.48)は、火事に遭遇したときに消防署に通報をするという活動です。火災発生場所は、学習者が居住圏内の具体的な場所を取りあげるといいでしょう。
- ・学習者の日本語のレベルに合わせて、取り上げる場面を限定したり、取り上げる表現についても「これだけ言えれば、何とか通報ができる」「これが言えれば、状況をやや詳細に通報できる」など段階を持たせたりして工夫してください。例えば、「活動1－通報しよう」(p.48)では①自宅で起きた火事を通報する場面と②外に出ているときに火事を発見して通報する場合を提示しましたが、学習者の日本語のレベルによっては①のみ扱うこともできます。取り上げる表現も火災発生場所と自分の名前と電話番号を単語レベルで言えればよいと考えることもできます。
- ・学習者の日本語のレベルによっては、ロールプレイをするとき、消防署に通報するだけでなく、周りの人に火事を伝える行動、通報をお願いする行動も入れられるといいでしょう。また、複雑な状況(例えば、火災を発見したが住所が分からない)のとき、どう対応するか話してみるのもいいでしょう。

< 周りの人に火事を伝える表現の例 >

火事だ！／火事！逃げて！

< 通報をお願いする表現の例 >

あそこで火事です。消防に電話をお願いします。

体験・行動する

■活動シート

・活動2－火事に備えよう(p.49)

- ・「活動2－火事に備えよう」(p.49)は、身近にどんな防災設備があるかを知る活動です。消火器や火災報知機の実物を手にして、使い方を確認したり、自宅、職場、日本語教室の消火器の設置場所や避難経路を確認します。
- ・防災設備について学習者の母国ではどうなっているのか話をしてもおもしろいでしょう。
- ・街頭消火器の設置場所については、自治体のホームページなどで紹介されています。また、自治体に問い合わせて聞いておくこともできます。(街頭消火器は設置されていない自治体もあります。)

体験・行動する

■活動シート

・活動3－防災訓練に参加しよう(p.50)

- ・「活動3－防災訓練に参加しよう」(P.50)は、地域の防災訓練に地域の一員として参加する活動です。訓練にいっしょに参加することを教室活動に組み込んでみましょう。地域で生活する一員という気持ちがあると、万一のときも安心です。

ことば・表現を知る

◆ことば・表現シート

・ことば・表現－火事に関することば・表現(p.51)

- ・「イラスト・写真シート」の話の中で出てきたことばや表現について、「ことば・表現シート」を使って確認しましょう。話の中で出てこなかったことばや表現は必要に応じて確認をしてください。

発展的な活動

- ・学習者の日本語のレベルやニーズによっては、救急や警察への通報など火災以外の緊急事態を同時に扱うなど、異なる生活行為を組み合わせた教室活動

も考えられます。

＜活動例＞

- ① 緊急事態がわかるイラストを提示して場面を確認する。また、自分がこのような経験をしたことがあるか、自分が経験した緊急事態について話す。

例) ・おなかを押さえて倒れている人
・車と自転車の交通事故の場面
・火事
・路上でのひったくり

- ② それぞれの緊急事態を通報する場合、通報先とその電話番号について話す。そのとき、自分の国の通報先、電話番号についても話す。

- ③ 各場面での通報のロールプレイをする。